

【開催報告】

山陰海岸ジオパークみんなでおしゃべり4 ～価値あるひとつを、誰かに伝えてみませんか？～

- 日時 1日目：2021年12月12日（日）9：30～16：00
2日目：2022年1月30日（日）9：30～12：00
- 開催方法 オンライン（Zoom）
- 参加者 1日目：22人、2日目：17人
- 主催 鳥取大学、鳥取県
- 共催 山陰海岸ジオパーク推進協議会

毎年、参加者とのおしゃべりを通して地球や地域の持続可能な発展を模索する「山陰海岸ジオパークみんなでおしゃべり」。4年目となる今年度のテーマは、「価値あるひとつを、誰かに伝えてみませんか？」です。自らが次世代に引き継ぎたいと考えるモノ・コトについて、周囲に伝えたことはありますか？この「伝える」ということが、大切なものを守り・引き継ぐことができる持続可能な社会を作る第一歩だと私たちは考えています。

一人一人が「伝える」というアクションを起こすにはどうしたらよいか、企画スタッフが何度も打合せを重ね、プログラムを練り上げました。今年度は、みんなでおしゃべり初となる2日間開催とし、1日目と2日目の間の期間に参加者にアクションを促す構成にしました。

ご参加いただいたみなさま、活発な議論と円滑な進行にご協力いただき、また、前向きに「伝える」ことに挑戦してくださり、ありがとうございました！

ファシリテーター



大岩根 尚

株式会社musuhi取締役。東京大学で博士号（環境学）を取得後、南極観測隊を経て鹿児島へ移住。自然ガイドによる地域活性化や教育・人材育成など幅広く活動。

企画スタッフ

- 菅森 義晃（鳥取大学農学部）
- 金山 恭子・太田（小矢野）悠造（山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館）
- 山本 早紀・藤原 勇樹（山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局）
- 佐野 恭平（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科）

Session 1（12/12）

山陰海岸ジオパークの研究最前線 & 鳥取大学学生さんの研究活動

山陰海岸ジオパークの研究者や学生が日々取り組んでいる研究を参加者へ伝えました。参加者は、グループで感想を話し合い、オンラインツールで感想・質問を共有しました。

① 浦富海岸におけるウミウシ類の季節変動
太田（小矢野）悠造
海と大地の自然館

② 鳥取県東部岩美町長谷で地球の歴史にふれる
鳥取大学農学部3年生 Aさん・Bさん

③ 鳥取県東部浦富海岸の生物から地球の変動を知る
菅森 義晃
鳥取大学農学部

④ 鳥取砂丘植生マウンド解体試験区における地形変化の量的評価
鳥取大学農学部4年生 Cさん

⑤ 山陰海岸の知られざる火山たち part.2
金山 恭子
海と大地の自然館

⑥ 隠岐郡西ノ島外浜における海岸侵食
鳥取大学農学部4年生 Dさん

みんなの感想・質問（一部のみ）

太田さん：うみうし何歳まで生きますか？	太田さん：ウミウシには気候変動（地球温暖化）の影響はありますか？	太田さんへ、ウミウシの捕食者はワカシガキに食われるんですか？
太田さんへ、ウミウシを見つけるのは難しいですか？	太田さん：ウミウシってどうしてあんなにいるの？色があるんですか？	太田さん：うみうしって触るとどんな感じがしますか？
A・Bさん：調査で一番楽しかったことは何ですか？	初めて見るカラフルなウミウシに感動しました。	太田さん：ウミウシの種類が多いのはなぜ？
太田さん：うみうしって食用にはできますか？	太田さん：定期的に潜水調査をして地盤にカウントしているのがすごいと思いました。	A・Bさん：日どのくらいの時間調査を行ったんですか？

みんなの感想・質問（一部のみ）

3000年で1mくらいの隆起だとすると0.3mm/年だと思えますが、現在のGPSで同じような隆起が計測されていたりしますか？	Cさん：1年で砂丘の姿が全然違うのが面白いと思いました。	菅森先生：C14年代測定が分からなくて困りました。どうやって年代が分かるんですか？
Cさん：植生マウンドのどこに設置されたんですか？	菅森さん：洞窟内の化石の分布と年代をたたくらべたら、季節ができた時期の推定できるのかな？	菅森さん：佐野さんも書いていたけど、他の場所、他の高さにカンザシは見られないの？
Cさん：植生マウンドのどこに生えている植物はどんなものがありますか？（背が高い植物？）	Cさん：先ほど発表された研究を追求していくと「今後CO2が上がる」といいたいことがあつたんですか？	Cさん：すごくおもしろかったです。引き継ぎの調査はがんばってください。
Cさん：想像以上に砂の動きが激しかったです。実情はいいだけで鳥取砂丘の風況は常に変化しているんですか？	Cさん：砂の移動と、海の中の砂の移動は同じようなもの？	

Session 2（12/12）

あなたが伝えたいことは？自分の「アクション」をつくろう

ペアインタビュー（自分のことを振り返る）

二人一組で互いにインタビューすることで、自分を振り返り、自分の中の大切なことを探りました。

質問リスト

- ① 簡単な自己紹介
- ② 子ども時代はどんなことが好きでどんな遊びをしていた？
- ③ 学生時代の部活や趣味、今の自分につながっていることはある？
- ④ 高校卒業以降、情熱やエネルギーを費やしたことは？
- ⑤ 人生が長い旅路だとすると、今どのあたりにいる感じがする？
- ⑥ ジオパークに関わっていて、どこに魅力を感じる？自分のどんな背景がそう感じさせる？
- ⑦ 次世代に残したいと願っている、地域の文化や人は？誰かに伝えるとしたら、どこの誰に伝える？

個人ワーク（伝えたいことやアクションをまとめる）

- ・ 次世代に遺したい地域の自然や文化とは？
- ・ そのことを誰に伝える？
- ・ どんな方法で伝える？（プレゼン、写真、動画、歌、俳句、絵画、料理、ただ話す等）
- ・ どんな風に伝えると自分がわくわくする？

グループワーク（話してみても磨き上げ）

グループ内で伝えたいことやアクションを話し、感想やアドバイスを出し合いました。

Session 3 へ向けた“宿題”：「伝える」アクションを起こす！

Session 3（1/30）

「伝える」アクションの振り返り

自分のアクションをグループ内で報告し、感想・コメントを述べあいました。グループの代表を1名推薦し、各グループの代表5名から参加者の投票により、「ベストチャレンジ賞」を選定しました。ベストチャレンジ賞に選ばれた方には、スタッフが心を込めて作った賞状及び副賞を進呈しました。副賞はなんと、スタッフ自らが案内するマニアック（！？）ツアーです。

☆参加者のアクション（ほんの一部）☆

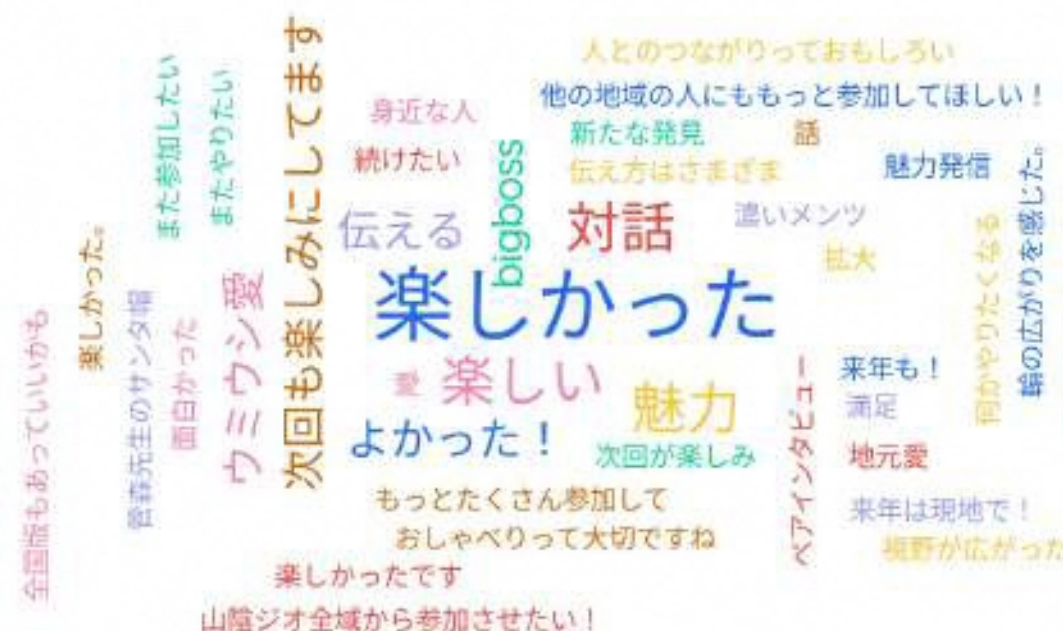
- オオサンショウウオのぬいぐるみを作って写真撮影、山陰海岸ジオパークの写真と一緒にSNSに投稿した。（ベストチャレンジ賞1位）
- 観光協会に対し、対話などを通じて隠岐のジオパーク的な価値を知ってもらう（例：好きな石を聞いてみる、研修会に呼んでみる）。（2位）
- 伝統文化等を知ることの大切さについて伝えるために、夫の好きな分野に関連した本を読んでその内容を話してみた。（3位）
- スノーシューで地元雪山を歩いた体験を報告。（4位）
- 大阪の実家の家族に、親ガニと地酒を紹介することで山陰海岸の魅力を伝えた。（5位）
- 動画を作って妹とその子どもに地球科学の魅力を伝えた。

ベストチャレンジ賞副賞 ※交通費等は参加者負担です。



より効果的にアクションを促すためには？（事後アンケート）

- SNSをどんどん活用していくことが有効だと思った。
- 伝える対象が誰かということを考えてから伝える方法を考えると、もっと効果的に相手に伝わるのかなと思いました。
- 宿題がなかったらやらなかったかもしれないので、課題があると張り切るきっかけになると思います
- 一人で起こすアクション、複数人で起こすアクション、周りに広げるアクション。そこまでイメージできれば、大きなアクションになるのではないのでしょうか。
- 「何をしていい」「他人のアクションや考えを否定しない」というスタンスは大事ななあと感じました。



みんなの感想（抜粋）

研究発表について

- 近頃の大学生はしっかりしてるなと思いました。
- 発表は緊張したけど達成感があった。頑張ったスライドをほめてもらえて嬉しかった。
- 自然の姿を残すために手をくわえることの難しさがわかった。
- 鳥取で学ぶ学生さんが精力的に活動されるのを知ることができて良かった。
- さまざまな研究成果が聞けて、面白かったです。
- 皆さんわかりやすく発表してくださって、地質については素人の私も大変わかりやすかったです。あと、太田さんのウミウシ愛がすごくて感動しました！（笑）

ペアインタビュー、個人ワーク、グループワークについて

- 子どもの頃の話語りあうことで、相手とかなり近づいて、そのあとの対話がしやすくなった。久しぶりに人とちゃんと話した感じで、すっきりした感じもあります。
- 楽しく話しながら自分の考えを整理する機会にもなり、大変有意義でした。
- 同じものを見ていても、人によって持つ疑問がそれぞれ違って、おもしろいなと思った。
- 「みんなでしゃべり」のテーマがより追求され深められていた印象でした。午後みの参加だったので、冒頭は流れが掴みにくかったです。また、個人ワークがどのスパンでの目標を定めるべきか分かりにくかったです。

「みんなでしゃべり4」全体を振り返って、学びや気づきなど

- 自分が思っているよりもみんな地元愛が強いということに気づいた。
- 人に話すことの楽しさ、聞いてもらえることの嬉しさ（対話の重要性）
- 共有する事、一度立ち止まって考える場を作る事の大切さ。
- みなさんが大変真面目に！楽しく！！行動していて、全部が聞きながらわくわくした
- 本質的な心の部分で変わる事の大切さ、心を動かすために伝えることの大切さ、伝える手法は十人十色で義務感ではなく楽しみながら伝えることの大切さを感じた。
- 今回、アクションを行う中で、地元（大阪）の風景がジオパークというフィルターを通してみる事ができた。
- きっかけが無いけど何もしないけど強制だとやりたくなくなるので、してもしなくてもいいという程よく緩い感じが良かったです。また自分が誰にどうやって伝えるか「考える」フェーズがあったことで、よりアクションを起こしたという達成感が得られたのではと感じました。

その他、企画者に伝えたいことなど

- みんなでしゃべり5も期待してます！
- 企画お疲れ様でした！続けるの大変なのに毎年参加者の満足度が上がって素晴らしいです。JGNのメーリスとかで参加者募ったり成果共有してもいいのではないかなーと。
- 私一人での参加でしたが、宿題でいただいたワークを団体内で共有する中で「私達はジオパークで遊ばせてもらっている」、そんな原点が確認できて良かったです。
- 自由な発想、様々な角度から議論いただき企画を作り上げていただきたい。
- 2日開催で密度も増し、意義あるイベントだったと感じます。一方で、外部から参加させていただいた立場としては、もう少しカジュアルに参加できる形式・日程でないハードルが上がってしまうように思いました。
- 同じ職場の人をもっと参加させたい！！

